

—夏季大学雑感—

第20回夏季大学「新しい気象」講座雑感

日本気象協会北海道支社 中田 琢志

第20回夏季大学「新しい気象」は、去る7月29・30日に開催され、例年より多くの受講者（56名）の熱心な受講をいただきました。

1日目は、札幌市青少年科学館で「氷結晶の形を探る—宇宙実験をめざして—」（講師：北海道大学低温科学研究所助教授 古川義純氏）、「大気の塵を探る（黄砂から降雪まで）」（講師：北海道大学低温科学研究所助教授 遠藤辰雄氏）の講義と館内見学を行いました。

古川講師は、水の中でできる氷の結晶の形成についてお話されました。地上で実験すると重力による対流の影響を受けるため、無重力状態での結晶形成実験を進めているそうです。ロケットや航空機を用いた観測の苦労話は興味深いものがありました。実験時間が長くとれるスペースシャトルでの実験も予定されているが、時期は未定とのことでした。

遠藤講師は、大気中のエアロゾルについてお話されました。地球上での雲の成因と分布と、それにおけるエアロゾルの重要性から始まり、エアロゾルの成因と観測方法、粒径分布等についてわかりやすく説明していただきました。最後は、日本人の青の色彩感が、上空の黄砂の影響を受けた藍色の空の色に影響されているという興味深いお話でした。

2日目は、札幌管区気象台で「北海道の気候—過去、現在、そして将来—」（講師：札幌管区気象台予報官 川野浩氏）、「テレコネクション—日本の天候を左右するもの—」（講師：北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授 渡部雅浩氏）の講義と台内見学を行いました。

川野講師は、気候の成因と変動についてお話されました。温暖化のからくりを熱収支の観点からわかりやすく説明されました。高精度の気候数値モデルを用いることで、最近50年の地球規模の温暖化は主に人為的な原因によるものであり、70年後には北海道の気温が2℃上昇すると予想される、ということでした。

渡部講師は、離れた地点での気象要素の相関関係（テレコネクション）についてお話されました。エルニーニョの発生がいろんな過程を経て日本の天候を温暖化させる過程をわかりやすく説明されました。最近話題のエルニーニョは本州、北極振動は北海道の冬季の気温に影響を与えるとのことでした。

今回の講座では、大半は初めての参加者でしたが、18回目の参加という方をはじめ、数回目という参加者もいらっしゃいました。来年以降もそれらの方のご期待に応えていく必要を感じました。

最後になりましたが、今回の講座開講にあたりましてご尽力いただいた講師の方々、札幌市青少年科学館、および札幌管区気象台の皆様、厚くお礼申し上げます。



受講風景（青少年科学館）



見学風景（札幌管区气象台）
（高層観測用気象ゾンデ）